

製品名: KV3.2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13166**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

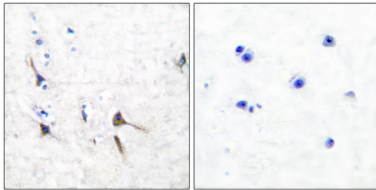
遺伝子名	KCNC2
別名	KCNC2; Potassium voltage-gated channel subfamily C member 2; Voltage-gated potassium channel Kv3.2
遺伝子 ID	3747.0
SwissProt ID	Q96PR1
免疫原	抗血清はヒトカリウムチャンネル Kv3.2b 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 589-638

背景

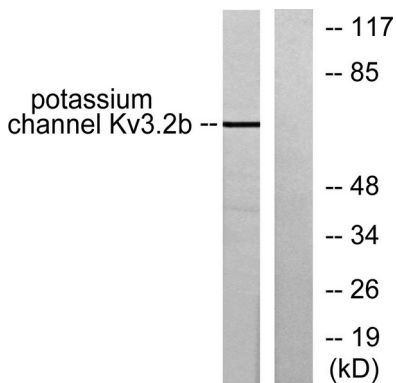
ショウジョウバエの Shaker 遺伝子ファミリーは、電位依存性カリウムチャンネルの構成要素をコードし、4つのサブファミリーから構成されています。配列の類似性に基づくと、この遺伝子はこれらのサブファミリーの1つ、すなわち Shaw サブファミリーと類似しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、チャンネルタンパク質の遅延整流クラスに属し、興奮性膜の電位依存性カリウムイオン透過性を媒介する膜貫通タンパク質です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2012年5月]、ドメイン:セグメント S4 はおそらく電位センサーであり、3つおきの位置に一連の正電荷アミノ酸が並ぶことが特徴です。ドメイン:テールは、チャンネル活性の調節や、特定の細胞内区画へのチャンネルの標的化に重要な役割を果たす可能性があります。機能:興奮性膜の電位依存性カリウムイオン透過性を媒介します。膜を挟んだ電位差に応じて開または閉構造をとるタンパク質は、カリウムイオンが電気化学的勾配に従って通過するカリウム選択性チャンネルを形成します。チャンネルの特性はサブユニットの集合によって調節されます。類似性:カリウムチャンネルファミリーに属します。C (Shaw) サブファミリー。サブユニット:カリウムチャンネルは、おそらく、調節補助サブユニットと会合できるポア形成サブユニットのホモまたはヘテロ四量体複合体で構成されています。KCNC1、KCNE1、KCNE2、および KCNE3 と相互作用します。

研究分野

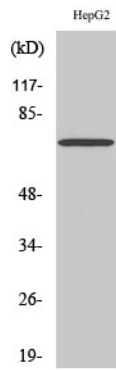
画像データ



カリウムチャンネル Kv3.2b 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



カリウムチャンネル Kv3.2b 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



KV3.2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析